



生活支援体制整備事業

お互いさま ひろお通信

「地域づくりから育つひろおの支え合い」

第13号 2020年4月

異国の地で生まれる安心感 お菓子作りから見えたこと

今回は、以前にレクダンスの会で登場した中野さやかさんにご紹介いただき、町内で生活しているジェニファー・サンダーズさんとお菓子作りの場でお会いしました。

会場にはジェニファーさんと中野さんの他に楊秀琴さん、トビー・バリーさん、そして“お互いさま ひろお”のメンバー3名を加えた計7名が参加していました。

今回作ったのは、チョコレートとピクルスとハンバーガーです。それぞれの国柄や文化の違い（ハンバーガーに玉ねぎを入れないなど）を感じながら楽しく交流が図れました。

会食中ジェニファーさんに話を伺うと、お仕事は学校で英語を教えるA・L・Tをされており、広尾には2年前に就任し、前任地は新ひだか町にお住まいだったそうです。

中野さんと知り合ったきっかけは一緒に参加している楊さんを通じてでした。この時に中野さんが卒業した学校が、ジェニファーさんが広尾に来る前に働いていた学校と同じという事が



お菓子作りに 育っていた実



分かり一気に距離が縮みました。その後、本日作ったハンバーガーと一緒に作ったことによって仲が深まっています。

ジェニファーさんは中野さんとの出会いを「楊さん以外に英語を話せる人がいて安心した」と振り返ってくれました。その理由として、「役場やお店に行ったときに少しでも英語で対応してくれたり、挨拶も気軽になれる姿勢があると安心する」と話してくれました。

2人は決して特別なことをしているわけではありませんが、異国の地で生活するジェニファーさんにとっては、この何気ないつながりが「安心した」という発言に繋がっていると思います。

中野さんは今回この会を開催するにあたって「せっかく開くなら“お互いさま ひろお”のメンバーも巻き込んでつながりを広げたい」と呼びかけてくれて、3名のメンバーが集まりました。このような積み重ねが支え合いの基盤でもある、つながりづくりになると思いますし、このつながりはかけがえのない宝物だと思います。